

ふるさとに
戻れない人が
いまでも
原発は終了
させるべき

橋本 武士

福島県生活環境部 環境回復推進監 兼 次長（環境保全担当）

昭和 37 年（1962）、郡山市生まれ。
1986 年に福島県入庁。2011 年の東日本大震災発災時は
須賀川養護学校に勤務していた。会津大学を経て、2015 年に本庁に戻り
生活環境部産業廃棄物課長。2018 年から現職。

あの時、須賀川市の養護学校にいた私は、校舎が壊れるほどの
凄まじい揺れに驚き、生徒たちと一緒にグラウンドへ飛び出しました。
住んでいる郡山市では断水が続き、当時中学生の娘と給水所に長時間並んだことも。
ほどなく原発事故を知り、娘を「放射能にさらしてしまった」「嫁に行けるだろうか」
と心配もしました。2015 年、産業廃棄物課に異動。放射性物質に汚染された
廃棄物は、国が処理する仕組みとなっていて、県は国と共に環境回復の事業を進め、
私は、浜通りに設けられた環境省の仮設焼却施設の担当に。
施設の運営協議会では地元の方との話し合い、さらに「放射線不安相談窓口」を
設置し、帰還した方々が出した片付けゴミの放射線量の測定や
処分業者の紹介を行ってきました。
現在の業務は、除染や国の中間貯蔵施設、指定廃棄物の埋立処分などの監視です。
私たちは、日本列島の東半分には人が住めなくなるかもしれない大事故を経験しました。
放射能から逃げる時間も場所もありませんでした。
汚染された環境を元に戻すことは容易ではありません。
そして、いまでもふるさとに戻れない人たちがいます。
原子力発電とはそういうものです。原発は終了させるべきです。



中間貯蔵施設に向かう除去土壌などの
輸送車両の走行状況を日々モニタリングしている